右には 左に 台湾乙女のお手伝いさん 赤子のわたしを抱いている 中央の籐椅子に和服姿の父が掛け これも和服姿の母が立っている 小学校を卒業して間もないと思われる

ここに一葉の写真がある

金子秀俊

蘇花公路

台北州庁の役人であった父は
その頃(宜蘭の郡役所に勤めていた
この写真が撮られたのは一九三五年の(春まだ浅い頃と考えられる
一九三二年に(蘇花公路は開通した
蘇花公路とは(蘇澳から花連まで)およそ九十六キロの自動車道をいう
台湾東岸は千メートル以上の岸壁が垂直に吃立する断崖である
断崖を切り拓いた道路(これが蘇花公路である)
和平から崇徳までの二十キロは断崖の道をゆく
かつて(父から聞いたことがある
この公路を行くバスの運転手は(朝)出発の前に体調を調べられると
わたしと妻とは一九七一年から二年間
高雄の日本人学校に奉職した

妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って		その後で おもむろに 南へ北へと向かうのである	北に向かう車列がすべて到着するのを待つ	南に向かう車列がすべて到着すると	宜蘭で離合する	この公路 道幅狭く 離合できない		一九七二年の冬である	この蘇花公路を通ったのは
蘇花公路を通って南の花連へと向かった	蘇花公路を通って南の花連へと向かった妻とわたしは(早朝に)北の港町基隆を発って	蘇花公路を通って南の花連へと向かった妻とわたしは(早朝に)北の港町基隆を発って	蘇花公路を通って南の花連へと向かった妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発ってその後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ	蘇花公路を通って南の花連へと向かった その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ まとわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	蘇花公路を通って南の花連へと向かった	室で離合する 南に向かう車列がすべて到着すると その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ 妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	この公路 道幅狭く 離合できない 室蘭で離合する れに向かう車列がすべて到着すると その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ 妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	この公路 道幅狭く 離合できない 室蘭で離合する れに向かう車列がすべて到着すると その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ 妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	 一九七二年の冬である 二の公路 道幅狭く 離合できない 宜蘭で離合する 市に向かう車列がすべて到着するのを待つ 北に向かう車列がすべて到着するのを待つ その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであって 妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って
	早朝に	早 朝 に	も む ろ に	も 列 がすべて	妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発ってその後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっその後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ	室で離合する 室とわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って まとわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	この公路 道幅狭く 離合できない 室蘭で離合する れに向かう車列がすべて到着するのを待つ れに向かう車列がすべて到着するのを待つ きとわたしは 早朝に 北の港町基隆を発って	この公路 道幅狭く 離合できない 室蘭で離合する れに向かう車列がすべて到着すると その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ その後で おもむろに 南へ北へと向かうのであっ	 一九七二年の冬である 一九七二年の冬である 一九七二年の冬である

こある

	そこに込められた若き日の父母の思いに心を致す混乱の中で父母が持ち帰った小さな写真一葉第二次世界大戦(そして)敗戦(台湾からの引き揚げ	八十七年を経た	蘇花公路	セピア五した写真を見る
--	--	---------	------	-------------

運行している。 化連間の路線バスも、南澳-和平、和中-